



ひらほく新聞

ひらほく新聞で検索!

★ホームページ・ひらほくランド★

http://www.hirahoku.com/

☆ホームページにて ひらほく新聞を閲覧・ダウンロード可能です!

発行所 読売センター平塚北部 (ひらほく) 山本 直 〒254-0013 神奈川県平塚市田村9-4-32 電話 0463-54-2807

神様が応援してくる ありがとうの生き方

2011年10月に亡くなられた小林正観先生。生前直前まで毎年続けられていた「伊勢神宮お礼参り」での講話6回分の内容が、「ありがとうお礼参り」主催の皆さんによって1冊の書籍になりました。「ありがとうのすごい秘密」。ご紹介します。

書籍の中で「ありがとう」の言葉は80回以上登場。「ありがとうたい・ありがとうし」もたくさん出てきます。万病を癒す「魔法の言葉」として最新脳科学でも立証、「ありがとう」の秘密、書籍より。

子どもは育てるのではなくて育てるのです。勝手に育ちます。そして、育つときの条件というのは、一番近くにいる親、つまり父親や母親、特に母親の影響が大きいのです。なぜなら一緒にいる時間が長いからです。

一番身近な母親が楽しそうに生きるのを見て、子どもは物事は楽しいととらえれば、すべてのことが明るく楽しくなると母親を通して知ることができるといいます。ところが、最初のとらえ方で、母親の不満、愚痴、泣き言、悪口、文句を覚えてしまいますと、子どもは親のやったとおりまねをし、そのようなやり方を身につけていきます。

これから結婚して、母親になるかもしれない人は、まず大事なものは笑える顔の夫を選ぶことです。毎日毎日、朝起きるたびに「面白い顔よね」、夫のほうも「お互いさまだよね」と言える。これが平和な家庭の第一歩です(笑)。

運命に善し悪しはありません。「運がいい」「運が悪い」は自分が勝手に決めていられるだけです。「私は運がいい」と言えば現在も未来もずっと運がいい人になります。

1月1日の早朝、天皇は東西南北、四方に向かって祈りを捧げるそうです。「もし今年、日本に災いが降ってくるのであれば、まず私の体を通してからにしてください。」この言葉は、全国民の災いを私が一気に引き受けます、ということ。そのように自分が少しでも思えるようになると、病気や事故、災難のとらえ方がまったく違うものになってきます。



(1400円+税)

私たちはすでにたくさんものをいただいています。目があり見える、耳があり聞こえる、そして食べることができるといいます。すでに恵まれていることに気がついて、「ありがとう」を言いはじめると、その人たちが味方をしはじめ、それを見ている神様も味方になってくれるでしょう。

神は、人間の親子に与えた「情」そのものが神と人間の間にも存在していることを教えてくれている。だから心の底からでなくても損得勘定でもないから「ありがとう」とお礼を言ったほうがいい。面白いことに神は、そこに神を隠していません。心を込めない「ありがとう」もずっと言い続けてある回数を超えると、いつの間にか本人も気づかないうちに心の底からの「ありがとう」に変わります。まるで神様のよう、すごい能力です。

人間関係を良好にするには、不平不満や愚痴、泣き言、悪口、文句をやめること。そして、嬉しい、楽しい、幸せな、役に立つ、興味深い話をする、とありました。よく聞くことですが、そうでない人が多いからでしょう。神様はきっとそういう良い言葉で楽しそうに暮らしている人が好きなのです。神は「感謝」を伝えるところだといっています。お願ひばかりやわがままな人を応援してはくれません。自分を赦し、愛し、今あることに心から幸せだと感謝する。笑顔で明るく上機嫌に暮らす、そんなあなたを神様は応援してくれま

【小林正観】1948年、東京生まれ。中央大学法学部卒。心理学博士、教育学博士、社会学博士。学生時代から人間の潜在意識やESP現象、超常現象に興味を持ち、心学などの研究を行う。年間300回の講演で、全国を回る生活を続けた。2011年10月12日没。著書多数。

みんなが誰かを 幸せにしている この世界



(1400円+税)

昨年映画化、DVD化もされた感動書籍「また必ず会おうと誰もが言った」の著者、人気作家、喜多川泰さんの話題の最新作、『One World』(ともにサンマーク出版)のご紹介です。

想像をはるかに超えた喜多川ワールドの珠玉のメッセージに思いつきり心を打たれました。そして、どこから読んでもいいという、どうしたらこんな縁(えにし)をつなぐストーリーを生み出せるのか。眠れないほどの感動をいただきました。

読み進めるうち、自分自身の過去のいろんな出来事が思い出され、ストーリーと合わせ、何度も胸が熱くなりました。自分は18歳の春、新潟魚沼の片田舎から夢の大学生活への希望と一人暮らしの不安をかかえ、上京。そしてすぐにあることで大金を支払う羽目になり、高校時代から奨学金をもらっていたくらいなので、仕送りなしの状況で、入学式前からバイトを始めました。携帯のない時代、呼び出し電話で待ち合わせ。たくさんドラマがありました。

以後、いろんなことがあり、2年の中で退。両親に言えず、黙って引越、連絡を絶ち、とても大きな迷惑をかけました。そして、現在の恩師との最幸の出逢い。おかげさまでいまではこうした立場で、こんなミニコミを書かせていただいています。そういうえば、新聞を勧める仕事を始めてから、面談した大学生達によく自分の失敗を語り、いろんなお節介アトバイスをしてきたなあと思いをいたしました。あの時の大学生達はこうしているのでしょうか。

どんな失敗も、どんな大変な出来事も、すべてに意味があり、そして一つひとつの出会い、縁(えにし)で、この世界はすべて大きな環として繋がっている。たくさんすることを振り返り、読みながら実感しました。うちの子どもたちは、いま大学生と、高校生。この先どんな未来、人生が待っているのか。こうした書籍を読んで、自らの生きる意味、働く意味、出逢い、縁の大切さ、何のためにということをしづつでも学んでいってほしいと感じました。まさに、今年出逢った一番の小説であり、最幸の内容に、本当に感動いっぱいでした。

写真家の武本花奈さんの写真が何とも物語のイメージに絶妙にマッチ。素晴らしいです。そして、表紙のしゃぼん玉に込められた想いとは? 以下、アマゾン紹介より、異なるテーマの9つのストーリーに登場するのは、生きていけば誰もが直面するよう悩みや悲しみ、迷いや不安といった、さまざまな思いを抱いている主人公たち。彼らは、人との出逢いを通して生きるヒントを学び、新たな自分へと成長を遂げていく。各ストーリーに登場する人物が少しずつ重なり合いながら循環していく物語は、まさに私たちがいま生きていくこの世界そのもの。生きる力が湧いてくる作品です!

それぞれの物語を楽しむだけでなく、それぞれ的人生は、他者の人生と切り離すことができない縁でつながっていて、別々の物語のようにみえて、実はそれが一つの長編の物語になっていることを感じてほしい。『One World』というタイトルには、そんな思いが込められています。

